

体育、保健体育

令和7年度 授業改善のポイント

- 1 習得した知識を基に技能の出来映えや課題を伝え合うことができるよう、技能を身に付けるための運動の行い方を理解する学習場面を単元の前半に設定する。
- 2 前時の振り返りや運動の様子を撮影した動画等を基に、ねらいを達成した姿をイメージさせるとともに、児童生徒の思いを生かした学習課題（めあて）を設定する。

基本的な知識や技能を活用して課題を解決する授業づくり

【指導事例】球技「バレーボール」（中学校第2学年） 本時4／10

Point 1 知識を活用して課題を発見・解決するための単元構想

<第1学年及び第2学年ではラリーを続けることを重視した学習を行います>

時	1	2	3	4（本時）
学習内容	・オリエンテーション ・バレーボールの特性に関する学習【バレーボールによって高まる体力等】 ・ゲーム【診断的評価】	・ラリーを続けるために必要なことに関する学習【ボールを持たないときの動き】 ・技術的なポイントを基にした練習【ボールや相手に正対する動き】	・技能を高めるための練習【ボールや相手に正対する動き】 ・ゲーム【ボールや相手に正対する動き】	・課題の確認と解決するための練習方法の決定と練習【チームでの課題解決】 ・ゲーム【課題解決】
評価規準	【知識】バレーボールの特性について、発言したり学習カードに書いたりしている。	【知識】ボールや相手に正対することの大切さについて、発言したり学習カードに書いたりしている。	【技能】味方が操作しやすい位置にボールを操作することができる。	【思考・判断・表現】提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。

指導と評価の計画

重要 第1学年で学習した内容と第1時の診断的評価を基に、生徒の実態を踏まえた上で「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを関連させながら資質・能力を育成できるように単元を構想し、指導と評価の計画を作成します。その上で、知識や技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」の育成や評価につなげます。

<ねらい> 提示された技術的なポイントやつまづきの事例を参考にして、互いに課題や出来映えを伝え合うことができる。

導入



前時の振り返りに書いた課題を紹介しましょう。

ねらった場所にボールをコントロールできず、パスが繋がらなかったことです。

～3年生のゲームの映像を見る～



私たちもボールが繋がってラリーが続くと、もっと楽しくなるだろうな。

3年生のようにラリーを続けるためにはどうしたらいいんだろう。



Point 2 生徒の思いや意欲を引き出した上で学習課題（めあて）を設定し、生徒が終末でねらいを達成した姿を具体的にイメージさせることで、学習意欲を高めることにつなげます。

学習課題 ラリーを続けるために、どのようなことを意識して練習をしたらよいだろう。

展開



～前時の練習の様子を映像で確認する～

自分たちは3年生と比べてボールや相手に正対することを意識できていないね。

準備姿勢をとってボールや相手に正対すると、ボールへの反応が素早くなるよね。



ボールへの反応が素早くなるともっとボールが繋がりがやすくなるはず。

私たちの課題が分かったので、タブレットに入っている練習方法から課題に合ったものを選ぼう。

～練習後のゲーム～



ゲーム後に課題が解決できたかどうかを動画でチェックしてみましょう。一人一人の動きが確認できるように、ゲームの様子を撮影してください。

～ゲーム後～



動画を見て自分たちの課題が解決できたかを確認したら、①チームの課題、②選択した練習方法、③練習の成果、について振り返りましょう。

終末

重要 選択した練習方法で課題が解決できたかどうかについて振り返ることにより、本時の学習課題と振り返りを整合させます。そして自己の変容への気づきや新たな課題発見につなげ、次時からの学習の見通しをもつことができるようにします。

重要 生徒が課題を解決するヒントを基に練習方法を選択できるように、これまでに学習した技術的なポイントや練習方法の例を壁面等に掲示したり、タブレット端末で共有したりするなどして、いつでも確認できるようにすることが大切です。

ICT 練習後のゲームで課題が解決したかを確認できるように、コートにいる全員が映る場所で撮影するなど課題に合わせた場所で撮影したり、一時停止機能やスローモーション再生機能を使ったりして、振り返りに活用します。